

背景

- ▶ 経済社会・高等教育のグローバル化
- ▶ 生産年齢人口の減少
- ▶ デジタル革命・イノベーション創発の必要性
- ▶ 都市一極集中と地方創生
- ▶ 存在感ある国づくり：高等教育外交

大学は国の成長を牽引する知的拠点としての役割が求められる

インプット

SGU予算

物品費

人件費

謝金

旅費

その他

自己財源

運営費交付金、学納金、寄附金 等

アクティビティ

- ① 教育・事務組織の再編
- ② 学内規程等の見直し
- ③ 教育プログラムの構築・実施
- ④ 海外大学のガバナンス・マネジメント等の事例調査
- ⑤ 研修（語学、FD、SD等）
- ⑥ 外国語による広報、情報提供
- ⑦ 多様な国籍の教員による授業の実施
- ⑧ シンポジウムの開催
- ⑨ 海外大学との連携協定 等

アウトプット

徹底した大学改革と国際化

- A 国際化関連
- ・ 多様性[①⑦⑨]
 - ・ 流動性[①③⑦⑧⑨]
 - ・ 留学支援体制[①③④⑤⑥⑨]
 - ・ 語学力関係[③⑤⑥⑦]
 - ・ 教務システムの国際通用性[②③⑦⑧⑨]
 - ・ 柔軟な学事暦[②④⑥⑨]
- B ガバナンス改革関連
- ・ 年俸制の導入[②④]
 - ・ 国際通用性を見据えた採用と研修[①④⑤⑥]
 - ・ 事務職員の高度化への取組[①④⑤]
- C 教育の改革的取組
- ・ ナンバリング[②④]
 - ・ シラバスの英語化[⑥⑨]
 - ・ 英語民間試験の学部入試への活用[②]

初期アウトカム

ガバナンス[B]

- ・ 国際化のための学内意識の醸成
- ・ 国際化推進にプライオリティをおいた意思決定

組織[A、B]

- ・ SGU採択校としてのブランド化の進展
- ・ キャンパスの国際化
- ・ 人事、教務システムの整備
- ・ 事務職員の高度化
- ・ 外部資金・寄附金等の獲得による自走化の進展

教育・研究[A、C]

- ・ 教職員の多様化
- ・ 学生の流動性の向上
(日本人学生の留学、外国人留学生の受け入れ、大学間学生交流)
- ・ 留学支援体制の構築・強化
- ・ 国際化に対応した学事暦の柔軟化
- ・ 質を伴った国際共同学位プログラムの展開（ジョイントディグリー等の開設）

「日本の大学」から「世界の大学」へ

中・長期アウトカム

大学の**体質改善**による**組織文化の変化**

国際化を先導するグローバル大学を日本に創設

- 外国人教員・留学生の受け入れ環境整備
- 日本人学生のグローバル対応力強化
(語学力、国際感覚・教養)
- 国際交流・研究ネットワークの構築・拡大
(共同学位の授与等)

補助金終了後の自走化

SGUの成果普及

大学の国際競争力強化

高等教育の国際通用性の向上

SGU以外の大学

SGUの成果を踏まえ、各大学の特性・事情を踏まえた国際化の進展

インパクト

日本の大学において、

- 世界を舞台に活躍できる人材、我が国の安全保障・外交政策に資する人材、日本経済を牽引・発展させる、イノベティブで付加価値を持った人材の輩出
- 各分野における世界第一線の研究に基づく技術革新
- 世界中から優秀な留学生が集い、人材のハブが形成され、我が国の国際化が進展

上記が絶えず生み出される「社会システム」を構築し、

- 高い教養と専門的能力の涵養による一人一人の豊かな生活の実現
- 科学技術イノベーションを通じた技術革新による社会の持続的発展

インパクト達成に向けた他の政策例

- 大学教育の質保証、情報公開
- リカレント教育の推進
- 社会人学生受入
- 雇用の流動化
- 初等中等教育との連携

高度な頭脳循環・優れた人材育成の基盤整備

スーパーグローバル大学（SGU）創成支援事業のロジックモデル（旧モデル）

インプット

SGU予算

- 物品費
- 設備備品費・教務システムの導入
消耗品費
- 人件費
- プログラムコーディネーター
外国人教員
高度専門職
- 謝金
- 海外の協定大学からの招聘講師
- 旅費
- 海外キャンパス展開に係る調査
講師招聘旅費
- その他
- 外注費
文書翻訳委託費
印刷製本費
パンフレット作成
その他
シンポジウム等開催のための会場借料

運営費交付金等（基盤的経費）

- 物品費（通信・ネット環境整備）
- 人件費（教職員給与）等

アクティビティ

- 学内又は有識者会議の開催、方針のとりまとめ
- 研修
- 海外大学訪問
- シンポジウム開催
- 内外シンポジウムへの参加
- 留学フェアへの参加
- 教育プログラム作成・実施
- 翻訳作業等外注

アウトプット

- ビジョン・中期計画の策定
- 組織再編
- 規程整備
- 国際通用性を見据えた人事評価制度の導入
- 高度専門職の採用・育成
- 外国人教員の増加
- 入試における国際バカロレアの活用
- 外国の大学で学位を取得した日本人教員の増加
- 外国人留学生の増加
- 日本人学生の留学増加
- 大学が定めた語学力基準を満たす学生の増加
- 外国語のみで卒業できるコースの数等
- シラバスの英語化

初期アウトカム

徹底した大学改革と国際化

- ガバナンス**
 - 国際化のための学内意識の醸成
 - 国際化推進部署のイニシアティブによる意思決定
- 組織**
 - 人事、教務システムの整備
→例：外国人教職員も働きやすい人事・労務制度の構築
 - 事務職員の高度化
- 教育・研究**
 - 教職員の多様化
 - 学生の流動化（日本人学生の留学、外国人留学生の受け入れ、大学間学生交流）
 - 留学支援体制の構築
 - 学事歴の変更
→国際化に対応した学事歴
 - 国際共同学位プログラム（ジョイントディグリー等の開設）

「日本の大学」から「世界の大学」へ

中・長期アウトカム

- 大学の**体質改善**により、**組織文化が変化**
- 国際化を先導する**グローバル大学（約30校）を日本に創設**
 - 外国人教員・留学生の受け入れ環境整備
 - 日本人学生のグローバル化（語学力、国際感覚・教養）
 - 国際交流・研究ネットワークの構築（共同学位の授与等）
- 補助金終了後の自走化
- SGUの成果普及

SGU以外の大学

SGUの成果を踏まえ、各大学の特性・事情を踏まえ国際化

背景

人口減少社会、経済社会のグローバル化
ATやIoT等の先端技術の進展
10年先が予測困難とも言われる時代

大学は国の成長を牽引する知的拠点としての役割が求められる

インパクト

日本の大学において、

- 世界を舞台に活躍できる人材の輩出
- 各分野における世界第一線の研究に基づく技術革新
- 世界中から優秀な留学生が集い、人材のハブが形成され、我が国の国際化が進展

これらが絶えず生み出される「社会システム」の構築

優れた人材育成の基盤整備

高等教育の国際通用性

インパクト達成に向けた他の政策例

- 大学教育の質保証、情報公開
- リカレント教育の推進
- 社会人学生受入
- 雇用の流動化
- 初等中等教育との連携

秋の年次公開検証等の指摘事項に対するフォローアップ

担当府省名	文部科学省		
テーマ等	スーパーグローバル大学		
指摘事項	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業達成時のスーパーグローバル大学（SGU）の社会における機能が明確とは言えない。文部科学省は、<u>目指すSGUの具体像を示すべきである。さらに、そこに至るロジックモデルをバックキャストिंगを通じて示し、SGUが実現できることを明確にする。</u> ・各SGUはその属性や比較優位性を踏まえたロジックモデルを構築するとともに、<u>定性的または定量的なアウトカム目標を公開し、それを達成していくことを示さなければならない。</u>一方、目標に至るための計画及びアウトプットなどのプロセスの評価による支援の急激な変動は、目標達成に支障をきたし、本事業目的には逆効果の恐れがあるため、<u>評価の対象は基本的にアウトカムに限定されるべきである。</u> ・本事業の目的が、本来各大学の自主努力によってなされるべきことに鑑み、事業としての予算規模が段階的に縮減していくことも前提に、<u>各SGUには自走化への計画を開示し、それを具体的に進めながら、その進捗を公表していくことが求められる。</u> 		
個別項目	対応方針・スケジュール	平成 31 年度予算政府案閣議決定時 までに決定・実施した内容	備考
<ul style="list-style-type: none"> ・本事業達成時のスーパーグローバル大学（SGU）の社会における機能が明確とは言えない。文部科学省は、<u>目指すSGUの具体像を示すべきである。さらに、そこに至るロジックモデルをバックキャストिंगを通じて示し、SGUが実現できることを明確にする。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・秋の年次公開検証時に作成した SGU の具体像を含むロジックモデルを修正し、SGU ホームページにて公表する。 (スケジュール) ・SGU の具体像を含むロジックモデルについては、秋の年次公開検証時の指摘を踏まえ、現時点の修正を行い、平成 30 年 12 月 28 日に SGU ホームページにて公表した。 ・SGU の具体像を含むロジックモデルは以下において作成する各採択大学のロジックモデルを参照し、今後、SGU の具体像を含め、見直し・改善を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の対応方針を決定した。 	https://www.jp-ps.go.jp/j-sgu/logicmodel.html
<ul style="list-style-type: none"> ・各SGUはその属性や比較優位性を踏まえたロジックモデルを構築するとともに、<u>定性的または定量的なアウトカム目標を公開し、それを達成していくことを示さなければならない。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・各採択大学において、アウトカム目標を含むロジックモデルを作成し、SGU ホームページにて公表する。 (スケジュール) ・2019 年 1 月中に作成依頼を行い、年度末までに公表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の対応方針を決定した。 	
<p>一方、目標に至るための計画及びアウトプットなどのプロセスの評価による支援の急激な変動は、目標達成に支障をきたし、本事業目的には逆効果の恐れがあるため、<u>評価の対象は基本的にアウトカムに限定されるべきである。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次回（2020 年度）の中間評価において、アウトカムを中心に評価を行うよう中間評価の実施方法を本事業のプログラム委員会において定める。 (スケジュール) ・2019 年度末までに中間評価の実施方法を本事業のプログラム委員会において定める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の対応方針を決定した。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の目的が、本来各大学の自主努力によってなされるべきことに鑑み、事業としての予算規模が段階的に縮減していくことも前提に、<u>各SGUには自走化への計画を開示し、それを具体的に進めながら、その進捗を公表していくことが求められる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・各採択大学において、財政支援終了後を見据えた自走化への計画を作成し、各SGU ホームページにて公表する。 ・次回（2020年度）の中間評価において、自走化の計画に対する進捗についても評価項目とする。（スケジュール） ・平成30年度末までに作成依頼を行い、2019年夏までに公表する。 ・2019年度末までに中間評価の実施方法を本事業のプログラム委員会において定める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の対応方針を決定した。 	
---	---	--	--

【出所】「行政改革推進会議（第34回）」（平成31年2月1日）
「平成30年秋の年次公開検証等の指摘事項に対する各府省の状況」より抜粋